

【用語の定義・注釈】

- *1 ピアスタッフ(ピアサポーターを含む)とは、自身の経験や立場を活かして、ピアサポートの感覚を大切に、同様の経験や立場の仲間のリカバリーに寄与する仲間。事業所等と雇用契約を締結し、報酬を得ている者をピアスタッフ、雇用契約等は締結せずに活動している者をピアサポーターと呼ばれています。(例:無償でピアサポートグループのファシリテーターを行っていたり、依頼を受けて講演会等を行っているなど)
本定義は、相川の定義(相川章子「ピアサポート/ピアスタッフの歴史的展開と発展可能性」,精神障害とリハビリテーション,26(2),126-133,2022)に、加藤の「ピアサポートの感覚を大切に」(加藤伸輔「ピアサポートの感覚を大切に」,「ピアスタッフ働くためのヒント」星和書店,p14-18,2019,)を加え、改編したものです。
- *2 リカバリーとは、一人一人固有のものであるという前提のもと、定義はないとも言われていますが、近年さまざまな定義が示されています。本来は当事者主体の言葉でしたが、専門職によって解説されるなかで、パーソナルリカバリーのほかに、臨床的リカバリーと社会的リカバリーに整理されています。ここでは、本来のリカバリーの意であるパーソナルリカバリーを意味します。SAMHSA(米国の物質依存精神保健部局)では、リカバリーを「人々が生活や仕事、学ぶこと、そして地域社会に参加できるようになる過程であり、ある個人にとってはリカバリーは障害があっても充実し生産的な生活を送ることができる能力であり、他の個人にとっては症状の減少や緩和である」と定義しています。Substance Abuse and Mental Health Services Administration (SAMHSA). SAMHSA's working definition of recovery: 10guiding principles of recovery. Rockville: Department of Health and Human Services, 2012.
- *3 ピアサポートとは、同様の経験や立場のある対等な仲間同士の支え合いの営みのすべて、と定義します。
- *4 ストレngths視点とは、個人の障害等やできないこと、欠点に着目するのではなく、その潜在能力(意欲、才能、技能、好み、性格の良い部分、願望)や、環境(資産、人間関係、社会資源等)などに着目し、尊重し、その力を生かした視点を言います。
- *5 本項目は「障害者の権利に関する条約」の第一条目的を参考にしています。第一条 目的「この条約は、すべての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする。障害者には、長期的な身体的、精神的、知的又は感覚的な機能障害であって、様々な障壁との相互作用により他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げ得るものを有する者を含む。」

本紙は「ピアスタッフの価値と役割に関する研究会」が多くのディスカッションを重ねて、まとめました。

ピアスタッフの価値と役割を考える研究会(五十音順)

研究会は、医療機関や地域事業所等のピアスタッフ、ピアスタッフを雇用する地域事業所運営者・雇用主のピアスタッフ、当事者経験のある精神保健福祉士、ピアスタッフと働いた経験のある専門職、看護やリハビリテーション、福祉などを専門とするピアサポート研究者、などピアスタッフをめぐるそれぞれ立場での当事者によって構成されています。

相川章子(埼玉県立大学保健医療福祉学部・代表者)／荒井浩道(駒澤大学文学部)／磯田重行((株)リカバリーセンター)／鶴領太郎(静岡福祉大学社会福祉学部)／佐々木理恵(東京大学大学院医学系研究科 医学のダイバーシティ教育研究センター)／関口明彦(NPO法人ミュー ライフサポートMEW)／瀬戸麻貴(サードプレイスびあるく)／西村聡彦(日本社会事業大学大学院)／濱田由紀(東京女子医科大学看護学部)／早川紗耶香(花園大学社会福祉学部)／眞嶋栄((医)学会 木村病院)／矢部滋也((一社)北海道ピアサポート協会)／横山和樹(札幌医科大学保健医療学部)

ホームページのご案内

「ピアスタッフ大切にしたいこと」および「ピアスタッフの倫理指針と実践ガイドライン」(本紙)は下記のホームページより無料でダウンロードできます。



ピアスタッフの価値と役割を考える研究会 ホームページ

<https://sites.google.com/view/peer-values-roles>

本研究は、科研費JSPS(科研番号:21K01954 研究代表:相川章子)の研究助成にて作成いたしました。

ピアスタッフが大切にしたいこと

と

ピアスタッフの倫理指針・実践ガイドライン [オ一版]

ピアスタッフの価値と役割を考える研究会

2026年3月9日

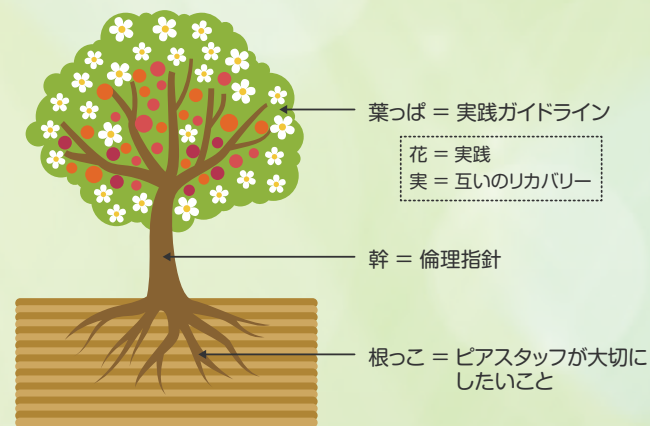
作成の趣旨

ピアスタッフ(ピアサポーター含む)*1は、自身の経験や立場を活かして、仲間とともにリカバリー*2の道を行っていく重要な役割を担います。その活動は、お互いの存在を肯定し、対等性や当事者性を活かして共にいるなかで、尊厳に基づく関係性を築くことにより、仲間のリカバリーを促進します。

そこで、ピアスタッフ仲間がリカバリーに貢献するために、「こころの軸」となる「ピアスタッフ大切にしたいこと(12項目)」を作成しました。日々の実践のなかで、揺らいだり迷ったりするときに、「大切にしたいこと」に立ちかえってかわることができるよう、そのために遵守すべき道徳的な原則を示す倫理指針とそのために具体的にどのような行動をとるとよいかを示すガイドラインを策定しました。

これらを実践することで、ピアスタッフは当事者と共にリカバリーの道を行くことができると信じ作成しました。

これは完成版ではありません。これをもとに、職場や学びの場などさまざまな場で、当事者の方をはじめさまざまな職種や立場の方と共に対話が生まれることを願っています。そして私たち一人ひとりが、出会いを通じて共鳴するなかで、「私の」もしくは「私たちの」「大切にしたいこと」と「倫理指針・実践ガイドライン」をもてることを願っています。



なお、「大切にしたいこと」と「倫理指針」と「実践ガイドライン」は、組織や個人の行動や意思決定の基盤となる重要な要素です。それぞれについて、以下の通り説明します。

- 「大切にしたいこと」
核となる価値(core value)として、最も重視する基本的かつ中核となる価値観や信念を示します。これらの価値は「こころの軸」として、日々の行動や意思決定の指針となり、組織文化の形成や維持に寄与します。
- 「倫理指針」
ピアスタッフ遵守すべき道徳的な原則や基準を示すものです。これらは、対人援助職としての責任や義務を果たすための行動規範を提供し、社会的信頼を維持するための指針となります。
- 「実践ガイドライン」
ピアスタッフが具体的にどのような行動を取るべきかを示すガイドラインです。これらは、「大切にしたいこと」や倫理指針を実践に移すための具体的な行動例や手順を提供し、日常業務における意思決定をサポートします。

なお、「ピアスタッフ大切にしたいこと」(リーフレット)と併せてご活用ください。 (「ピアスタッフの価値と役割を考える研究会」ホームページよりダウンロードできます)。

ピアスタッフが「大切にしたいこと」と倫理指針・実践ガイドライン

(①～⑫ピンク部分が「ピアスタッフが大切にしたいこと」の12項目です。)

倫理指針	実践ガイドライン
1 (存在の肯定) ピアスタッフは、あなたが「ここで、今」生きていることを大切に、存在を肯定します。あなたの存在をかけがえのないものとして尊重します。	私たちは、あなたのありのままを尊重します。 1) すべての人に存在の価値があるという出発点に立ち、たとえスティグマ等により自らの存在を蔑ろにしてしまうほど辛い経験をしている人をも尊重します。 2) たとえあなたが病気や障害の影響で揺れ動いていたり、床に伏していても、ありのままを受け入れます。 3) あなたの世界観を尊重します。 4) たとえ言葉にならなくても、あなたの思いに心を傾け、寄り添います。 5) あなたを支援の客体としてではなく、お互いを主体として尊重します。 6) あなたの存在を肯定するように、自分自身の存在も肯定します。
2 (共にいること) ピアスタッフは、ピアサポート ³ の出発点を「ただ共にいること」に置きます。ピアスタッフは、あなたといまこの時間、空間、存在を共にすることを大切にします。	私たちは、あなたと共にいます。 1) 同じような経験や立場があり、自らの存在を肯定しているピアスタッフが「ただ共にいること」が、お互いの助けになり、私たちにだけできることであること自覚し、そのことに価値を置いて行動します。 2) 安易な自己開示や問いかけを控え、あなたを変えようとしたり、あなたの世界に踏み入ることなく、まずは思いを馳せ、いまこの時間、空間、存在を共にする（「ただ共にいる」）ことを大事にします。 3) 沈黙の時間や饒舌の時間にも意味を置きます。 4) しゃべりすぎたり、黙りすぎたりすることに気をつけつつ、心地よく「共にいること」ができる安心の場を作ります。 5) 「共にいること」がただその場を共有しているということだけではなく、心は共にあることを自覚し、存在としての意味をなすよう意識します。
3 (対等性・相互性) ピアスタッフは、支援者と利用者など、置かれている立場や役割が対等ではない状況においても、人として対等な関係であることを大切にしています。そのために、互いの自己開示やそれぞれのペースに合わせた関係性を大切にします。	私たちは、あなたとの対等な関係を大切にしています。 1) それぞれの経験や自己開示を尊重し、お互いのペースに合わせた関わりをもち、対等な関係を大切にします。 2) 支援の枠組みの中では立場や役割が異なることから、対等であることが難しい状況が多くありますが、一人の人として対等であり続けようと努めます。 3) ピアスタッフは、置かれた立場によって生じる力の偏りに自覚的になり、一方的な力が働かないような関係性づくりを大切にします。 4) リカバリーの道を歩む先ゆく仲間として「してあげたい」という気持ちに流されず、リカバリーの道を共に歩みます。 5) ピアスタッフとして対等とはなにかについて考え続けます。
4 (当事者性) ピアスタッフは、困難な経験や立場性を忘れず、それを原点として大切にしています。あなたもピアスタッフも困難な経験をしている当事者として、お互いに尊重します。	私たちは、あなたと私たちの出発点である困難な経験を大切にしています。 1) 困難な経験や差別されうる立場性をもつというピアサポートの出発点を忘れずに活動します。 2) 困難な経験や当事者としての立場性には、新たな価値があるものと自覚し、信じます。 3) 互いの当事者性を尊重します。 4) 単なる保健医療福祉サービスの提供者にならないよう、あなたをケースとして対象化せず、ピアサポートの対等性・当事者性を堅持します。 5) それぞれの持つピアスタッフとしての原点に立ち返る機会を持ちます。
5 (経験の開示・共有・蓄積) ピアスタッフは、すべての人生の経験に価値があるという前提に立ち、経験を互いに語り合い、わかちあうことで、新たな経験の価値を生み出します。	私たちは、あなたと人生の経験を分かち合うことを大切にしています。 1) お互いの心がぐずと開かれるよう、安心できる場をつくります。必要に応じて、経験を少し語り始めます。 2) 安心のために、あなたの了解なく、他の人にあなたのことを話さないことを約束します。 3) あなたの経験や思いを、評価せずに聴きます。 4) あなたの経験に基づき、辛かった経験やリカバリーの経験を差し出し、わかちあいます。 5) 重なり合う経験がなくても、ものの見方や視点を伝えることができます。 6) 自らの経験をどこまで話すかは自分で決めることができます。 7) 自らの経験を語ることで、すべての人生にも意味や意義、味わいがあることを伝えます。
6 (リカバリー) ピアスタッフは、この世界にリカバリーはあるということを知っています。ピアスタッフはあなたのリカバリーを信じています。あなたとリカバリーの旅路をともに歩み続けます。	私たちは、あなたのリカバリーを信じ、共に歩みます。 1) リカバリーとはなにかについて一緒に考えます。 2) どのような困難な状況においても希望を持ち、リカバリーの可能性を信じます。 3) あなたとの対話を通して、お互いのリカバリーの旅の道すじを一緒に考えます。 4) リカバリーを決して強要はせず、それぞれのありかたを大切にします。 5) お互いの経験からともに学び、リカバリーを続けていきます。

倫理指針	実践ガイドライン
7 (ストレングス視点)⁴ ピアスタッフは、あなたと向かいあうときに病気や障害などを出発点とするのではなく、あなたのもつ力や可能性を信じます。	私たちは、あなたがもっている力や可能性を信じます。 1) 共に過ごすかわりのなかで、病気や障害の面だけを見るのではなく、あなたのもつ力や可能性をさまざまな角度から見つめます。 2) あなたのもつ力や可能性を活かすかわり合いをします。 3) 病気や障害、苦労の経験は弱さと考えられていましたが、ピアサポートにおいてはその経験がつながりとなり可能性を生み出すだけでなく、この経験こそが生きる上での知恵や資源の宝庫であるということの実感を言葉にして伝えます。 4) あなたの力や可能性を開いていくような言葉遣いや態度であることをふりかえります。
8 (尊厳の保持・権利擁護)⁵ ピアスタッフは、自身の経験に基づく権利感覚をもって、尊厳の軽視を見逃さず、どこまでもあなたを尊重し、味方しています。あなたが権利と尊厳を主張することを促進し、支持し、守ります。	私たちは、あなたの権利と尊厳を支持し、守り、大切にし、それらが奪われたり侵されそうになった時に、共に行動を起こしていきます。 1) 共に権利侵害を受け、被差別体験を共有している立場を立脚点とします。 2) 自身の経験に基づく権利感覚をもって、尊厳の軽視などに敏感であり続けます。 3) あなたの尊厳や品位を大切に接し、伝えます。 4) どんな小さな言葉や思いもふくめてあなたの望むことを大切にします。 5) あなたの権利が奪われていないか確認します。 6) 権利や尊厳が奪われたり侵されそうになった時に、あなたが権利と尊厳を主張するための情報提供や助言などをします。また、共に行動を起こします。 7) 自身の権利感覚をもって、違和感を覚えたときに、あなたと同僚らに伝え、ときに学び合います。
9 (希望・創造性に満ちた未来) ピアスタッフは、すべての人の未来に希望があることを信じます。あなたの人生における様々な可能性や創造性に満ちた未来を共に見いだします。	私たちは、あなたと共に希望を見出し、希望を持つことを大切にします。 1) あなたの存在を肯定し、人との出会いの中で生まれる希望を大切にします。 2) 誰にでも希望が必ず芽吹くことを信じ、希望が生まれてくることの大切さを共有します。 3) 希望を感じられなくなったとしても、その光と一緒に探し、再び灯ることを信じます。 4) 失敗や短所などを含めて誠実に生きざまを見せます。それによって、あなたの生きる上での選択肢が広がり、ピアスタッフはそこに寄り添います。 5) 一見無駄だと思うようなことなかにも、希望の種があることを信じて、ピアスタッフは共に歩み、応援します。 6) ときに未来に楽観的で、ユーモアを忘れません。 7) ピアスタッフ自身が自己を肯定し、自身の希望を信じます。
10 (学び合い) ピアスタッフは、あなたとの出会いを大切に、経験から学ぶとともに、自己研鑽していきます。出会いから始まるお互いの学びが実りあるものとなり、豊かな人生を歩むことを目指します。	私たちは、あなたとの出会いを大切に、お互いの生き方から学び続けます。 1) 「学び」とは、人と人が出会い、互いに関心を持ち、生き様に触れることから始まります。「学び」が人生の可能性を広げ、豊かにすることを知っています。 2) すべての人の生き方や価値観から学び合うことを大切にします。あらゆる出会いが学びとなることを知っています。 3) 経験を分かち合うことで、経験知を蓄積します。また自身の経験を振り返ることで、考え、学び続けます。 4) お互いの生き方からの学びに留まらず、研修への参加やスーパービジョンを受けるなど自己研鑽を続けます。 5) あなたとの学び合いのなかから、「私」の経験知を、「私たち」の経験知として築きます。 6) あなたが学びたいときに、学びの場や集まりなどの情報提供を行い、学びに誘います。
11 (社会の変革) ピアスタッフは、生きづらさを抱えながらも、わくわくできる組織や地域をつくり、そのための仕組みをつくりまします。当事者の権利が奪われないよう、誰もが自分の望む人生を歩むことができる社会を目指します。	私たちは、自らの経験をもって、あなたと私たちを取り巻く社会*を変革できる存在であることを信じます。 *社会には、人、組織、サービス、地域、制度等を含みます。 1) 自らの経験に価値があるという揺るぎない信念をもって、私たちの身のまわりの同僚や、組織、環境、社会に働きかけます。 2) 取り巻く状況を変革するにあたり、仲間とつながり、手を取り合います。 3) 今の社会に潜む課題を捉えるために、人に焦点を当て、さまざまな意見に誠実に向き合います。 4) 当事者が置かれている状況に対する厳しい現実や社会の体制に疑問を持ち続け、現状に流されたり諦めたりしません。 5) ありたい社会の具体的なビジョンを描き、変革の実現に向けた計画を立て、行動します。 6) すべてのプロセスにおいて当事者と共に行動します。
12 (地域社会・多様性と共生) ピアスタッフは、新たな排除を生みださないよう、立場、経験、背景の違いを理解し、多様な人々とつながります。社会の課題を自分ごととして考え、誰もが自分らしく生きられる地域・社会を共に築いていきます。	私たちは、多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きる地域・社会を目指します。 1) 多様性を尊重する前提として、自分の中や社会に潜む偏見について感度を持って点検します。 2) 異なる属性、立場、経験、価値観の違いを認め、背景や立場を理解するよう努めます。 3) ピアサポートの価値を認めつつも同じような経験や立場の人と固まることで起こりうる排他性に自覚的になり、常に包摂的な視点を持ち続けて関わります。 4) 一人の市民として、地域・社会に関心を寄せ、社会の課題を自分ごととして考えます。 5) さまざまな人々と機関と協働しながら、誰もが安心して生きられる共生社会を共に創ります。